

## 1. 活動報告（事務局 記）

—7月2日（日）大雨の後の晴れの日でしたが、修復に少し手間取りました。会員16名で、水路の土砂の撤去、田の手押し除草機による草取り、ため池のエコアップ、田の周りの草刈り、市道上の枝の剪定の作業を行いました。

—7月16日（日）維持活動として、田の草取りと草刈りなどを行いました。田の草取りには、稲作体験として、親子自然観察隊と二俣瀬子ども会にも参加してもらいました。参加者は、観察隊（親14名、子14名）、子ども会（親4名、子6名）、山大インドネシア留学生6名、協和キリン（企業2名）、市民センター長、会員19名でした。

—7月23日（日）宇部市主催の生物多様性応援団が、ふれあいセンターで国立環境研究所の辻本講師から生物季節観測に関する講義を受けて、ビオトープへ移動して、水棲動物や昆虫などを採取し、今見れる生き物を観察しました。参加者は、辻本翔平講師、11家族（親12名、子20名）、市関係者3名、ビオトープより原谷会員でした。

## 2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

—7月30日（日）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

—8月6日（日）親子自然観察隊（水棲動物観察）、維持活動（草刈り）

—8月20日（日）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

## 3. 来訪者の声

今回はありません。

## 4. 会員の声

今回はありません。

## 5. 親子自然観察隊 「稲作体験：田の草取り」 （菅 哲郎 記）

ビオトープ水田の雑草取りを行いました。“コナギ”が水田一面にはびこっています。梅雨明け宣言はまだですが、幸いにも長い雨も終わり、幸か不幸か今日は好天に恵まれました。

二俣瀬子供会の皆さんと親子自然観察隊の皆さんとの共同作業になりました。暑い中、20数名の参加をいただき、にぎやかな雑草取り作業を行いました。子供たちは思った以上に元気でしたが、10時前に一度休憩をとりました。お天気が良いために気温がぐんぐん上昇、朝は28℃でしたがたちまち32℃になりました。梅雨明けでもあり、昔のように子供たちも外での作業には慣れておらず、長時間の作業は危険ですので、休憩後30分でしたがリーダーの判断で本日の除草作業を終了しました。おかげで幸いにも熱中症で気分が悪くなる子供はおらず、無事、水田の雑草抜き作業を終了しました。一部の子供はまだまだやる気十分で、作業を続けたいという子もいましたがやむをえません。

泥だらけになりますので、あらかじめ川の水をポンプアップし、小プールを作りそこで体を洗っていただくよう準備していましたが、たちまち子供たちに占領され、水遊びの場所に代わりました。水田の雑草取りより、水遊びが大変気に入ったようなイベントとなりました。

水田雑草はおかげさまで80%ほど処理できたようです、思った以上に片付きました。暑い中、みんな頑張ってくれ、臨時のイベントでしたが、大変有意義な一日になったようです。お世話くださった会員の皆さん、暑い中ご苦労様でした。



水稻の間に雑草の「コナギ」がびっしり生育



直接手で抜いたり除草機を使って雑草の「コナギ」を処理しました



最後には水場は子供たちに占領されてしまいました

### 親子自然観察隊の感想

#### ★竹内結咲

いろんな生物を、田んぼで発見して楽しかった。どろんこになったけど、くさをぬくきか  
いもつかえて楽しかった。

#### ★竹内（母）

田んぼの草抜きは初めて体験しましたが、あんなに草が生えているとは驚きました。子供  
そっちのけで夫婦で必死に草を抜いてました。子供も初めて会った子ばかりでしたが、す  
ぐ仲良くなって遊んでいて楽しそうでした(^)/良い体験ありがとうございました。

#### ★國重（母）

草取りの道具を初めて使わせていただいて楽しかったようです。泥だらけで取った草を見  
せてくれ、これでお米が沢山とれるね！とこにこ笑顔でした。暑かったですがしっかり  
休憩もとりながらやれてよかったです。

#### ★高松真輝

初めは田んぼに入るのが怖かったです。道具を使って草取りするのが難しかったけど段々  
楽しくなりました。

#### ★高松（母）

なかなか田んぼに入る機会がないから初めは戸惑ってたけど、道具を使って草取りして  
る姿が楽しそうでした。貴重な体験を有難うございました。

#### ★関谷（母）

夫婦共に田植え経験がなく、子どもには生きる力として、体験させてあげたいと思っ  
ておりました。草取りは、子どもが積極的に取り組み、時間いっぱいまで田んぼに入っ  
て汗を流していました。『また、他の田んぼも草取りしたい!』と言っておりました。あ  
りがとうございました。

#### ★豊田優那

お米を育てるのは、ほんとに大変なんだなと思いました。

#### ★豊田（母）

娘の体調があまりよくない状態で参加したため、すぐにリタイアしてしまいましたが、無  
農薬で育てるといのはかなりの手間ひまがかかるというのを実感したとともに、農薬開  
発の進歩はすばらしいものだなと感銘いたしました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(89) サトジガバチ *Ammophila sabulosa* アナバチ科

日本全国に分布し、腰が細く長い特徴のあるハチです。皆さんもよく公園などで見かけていると思われます。体長は22～25ミリ、体色は黒色ですが腰の一部が橙色なのでよくわかります。ヤガやシャクガの幼虫を狩り、地中に浅い穴を掘って狩った幼虫を蓄えます。穴から出る時には敵に襲われないように必ず泥で蓋をします。

ガ類の幼虫を捕まえるとお尻の針で毒液を注入しますが、殺さず一時的にマヒさせます。面白いことに刺された幼虫は必ずまっすぐにピンと体を伸ばすのです。こうすることでマヒし動けなくなった幼虫を運びやすくするのでした。

仲間にはヤマジガバチ、ミカドジガバチ、ルリジガバチなど数種がいます。



サトジガバチ



サトジガバチの狩り 幼虫を狙う、針を刺す前



シャクガの幼虫を狩り運搬 すでに毒針を刺し幼虫の体がまっすぐになっている

## 7. 会よりの連絡事項

- 1) 今回はありません。

## 8. 編集後記 (松本 フデ子 記)

今年はいつもより早くたくさんの花を咲かせてくれたナツツバキ。池の土手にはもうハギが蕾をつけている。チョウトンボ、ショウジョウトンボ、イトトンボ等も変わらず飛び交っている。糠の散布にもかかわらず草が稲の根元を覆っている。少しでも多くの人の手を借りたいとの思いで、ひどい雨、蒸し暑さ、酷暑の梅雨がまだ上がらぬこの暑い陽射しの中、子供会、観察隊の親子の応援で賑やかな田の草取り。まだまだ草との戦いは続くけれどこの会の最後の稲作をみんなで手をかけ見守って実り多き秋となる事を願いたい。そしてご褒美のお餅を楽しみに。